

とりいまついせきつうしん 鳥居松遺跡通信

№10

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市文化財担当課 2008年5月7日

南側の発掘調査を始めました。

調査が完了した北側の埋め戻し工事と南側の表土掘削工事のため、4月中旬から発掘調査を中断していましたが、南側の調査準備も整い4月23日から本格的に調査を再開しました。

今回の南側調査区は、その一部に北側で調査した大溝(古代の小川の跡)を含みますが、ほとんどは弥生時代の遺跡と考えられます。すでに、弥生土器が大量に出土している部分もあり、今後の調査に期待が高まります。



井戸や竪穴住居の跡と思われる遺構が見つかっています。



小学生が見学に訪れました（4月30日・水）

浜松市立東小学校の6年生49人の児童の皆さんが、見学に訪れました。当日は、伊場遺跡資料館の見学をスタートに、鳥居松遺跡、都田の見徳古墳を回るという古代の歴史にふれるコースの遠足だったそうです。地面を約1m掘り進めると、2000年前の弥生時代の地層にたどり着くことや、たくさんの土器や木製品が出土していることなどを知り、驚きの声を上げていました。



見学を受け付けています。

6月上旬まで、作業日（平日の晴天時）の午前8時30分から4時30分の間でしたら発掘現場をご覧いただけます。

学校等の団体の見学にも対応いたしますので、担当者までお気軽にお問い合わせください。

